

だから今でも汽車に乗っている

ぼくはときどき、自分が

目に見えない聖歌隊としてしよに

空に向かつてハレルヤをとなえながら

長い旅をつづけつづけるような気がする

心のどこかで

欲だけを待ちながら ……

答えなら誰でも答えてくれること

作ることだとして出来ぬ

ぼくが少年の頃

新しい質問をしては

その答えをききたがっていた時のようにお

君が乗るのは

どんな汽車だろう

速い汽車かな

それとも、おもしろい汽車かな

もし、ぼくがながながの電車に乗ったら

ポプリの匂いを走りますよ君の顔がわかるだろうが

あの、いつもの君の顔が ……

汽車の旅をつづけて

胸当たつきのスポンをはいた少年が

線路のそばで君の手を振っているのが

見えるだろう

しかめっ面をしながら

君も今、ぼくと同じ道を旅している

小さな少年の姿が見えたら

はげましの言葉をかけてあげてくれ

心のなかの列車だけが

彼を遠くへ運ぶわねのだ

それをつづけていってほしいわね

少年は、じれから

成長してゐるかな、ぼくは、なまらなところだから